

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は、平成13年度に商業高校から総合高校に改編し、昨年度、扇町総合高等学校として、最後の入学生を迎えた。総合学科として6つ（令和2年度入学生からは4つ）の系列と多くの選択科目を設定しており、生徒のニーズに応じた多様で柔軟な教育活動を行っている。主体的に学習に取り組むことで個性を伸ばし、将来社会に貢献できる教養と技能を備える人材の育成をめざしている。

1 系列の特色を生かした学習

大阪文化・環境科学・マーケティングデザイン・会計ビジネスの各系列の特色を生かし、進路選択と結びつけた確かな学力を育成すると共に、今後も時代の変化やニーズに応じた学習形態や内容を実施する。

2 キャリア教育の推進

外部講師による実業教育講話、校外体験学習などを通して進路選択に繋げていく試みが功を奏し、生徒の多様な進路選択への対応が成果として表れている。現在、大学・短大・専門学校への進学者が毎年80%を超えていることを踏まえ、進学に向けた進路指導体制をさらに充実させ、教職員の専門性を生かしながら学習活動の大きな柱として引き続き取り組む。

3 確かな基礎学力の定着

生徒がそれぞれの進路希望をかなえ自己実現を図るためには、確かな基礎学力を定着させることと並んで、興味・関心を広げる発展的内容について探究し、深く理解する学びが不可欠である。家庭学習の習慣を定着させ、生徒の自学自習を促す段階的かつ継続的取組を行う。

4 「21世紀型スキル」の習得

学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」を通して、思考力・判断力・表現力を育成することが柱の一つとなっており、本校においても、生徒が身につけるべき所謂「21世紀型スキル」を育成するための授業展開を行っている。

5 生徒・保護者・地域の期待に応える学校づくり

積極的な情報発信は欠かせない。学校ホームページや体験入学の充実など様々な手法を駆使しながらPR活動に努める。また、地域と連携を深め、教育的・社会的資源としても貢献できる学校づくりをすすめていく。

2 中期的目標

1 主体的な学習に向けた授業改善の推進

(1) 総合学科の系列の特色を生かした学習目標を明確にし、教育実践を展開する。

(2) 各教科において「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善を研究し、生徒の興味関心を高め、「わかる授業」を実践する。

(3) 「扇総生に身につけてほしい力」として、①挑戦力、②探究力、③対話力、④発信力、⑤想像力、⑥自他肯定力、⑦キャリアプランニング力を設定しすべての教育活動を通じて、それぞれの力の育成を総合的に行う。

(4) 学校図書館の利用促進を図ると共に、生徒が主体的に読書活動を行い、発信するなどの機会を増やす。また、学習できる環境づくりを実施する。

2 自己肯定感の育成とキャリア教育の推進

(1) 進路保障のための組織的な補習体制を構築し、主体的な学習習慣の定着を進め、進学実績へと繋げる。また、個に応じたきめ細かい指導・支援を充実させる。令和5年度には大学・短大・専門学校の進学率（実績値）を85%にすることをめざす。（R2 78.1% R3 83.0% R4 84.7%）

(2) 社会人としての規律を守り、マナーやモラルについて考えて行動できる生徒を育成する。

(3) 生命や人権を大切にす精神を養うとともに、自他を尊重しながら、より良い学校生活を構築するために、協力して部活動や生徒会活動等に取り組む態度を育成する。

3 安全で安心できる学校の実現と社会の多様性を認識し、「人・社会」と繋がる力の育成

(1) 生徒の健康観を高め、社会の一員として公衆衛生の意義を理解し、校内外の美化や安全に向けて積極的に行動する態度を養う。

(2) 地域との交流を深め、積極的な情報発信により中学校・保護者への広報活動を一層強化する。

(3) 時間外勤務時間の削減を図るため、教職員への啓発と意識改革を図り、月80時間を上回る教員を0名にする。（令和4年1月現在延べ4名）

4 ICTの活用と整備

(1) 次世代の教育の情報化に向けて、ICTを活用した指導法などの教育内容の開発を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R4 年度値]	自己評価
1 主体的な学習に向けた授業改善の推進	(1) 系列としての独自性を確立し、系列行事を充実させるとともに、進路目標に応じた学力の獲得を支援する。	ア、授業で扱う学習内容の精選と補習体制の相乗効果で、大学など専門教育につながる資格・検定取得率の向上を図る。	各教科において系列の特性を生かし、資格・検定合格率を向上させる。 [R4 危険物取扱者乙種4類 50%] [R4 全商簿記2級 93%] [R4 STEP 英検準2級 47%] キャリア教育の推進により生徒・保護者向け自己診断において「選択した科目で、自分の進路選択につながった」という肯定的回答を85%以上にする。[R4 86%] 生徒・保護者向け自己診断において「プレゼンや商業実習、検定試験等への挑戦力が身についた」という肯定的回答を80%以上にする。[R4 76%]	
		イ、定期考査前には土曜自習室として会議室を開放し、常に進路を意識した学習ができる環境を確保する。	自主的な学習機会を設けるため、土曜自習室を年5回実施する。[R4 0回]	
		ウ、教員と生徒、および生徒同士で双方向での意見交換や体験型学習を積極的に取り入れ、生徒が主体的に発表を行えるような知識を習得できる授業を実践する。	将来を見すえた自主性・自立性を育成するため、生徒が企画・運営する校内発表会を年1回以上、校外発表会を年1回以上実施する。 [R4 各系列校内発表1回] [R4 各系列校外発表0回]	
		エ、各系列の特色をしたフィールドワーク等を実施するなど、系列独自の様々な取り組みを行うとともに、課題等を発見し、発信する力を養う。	専門性の学びを深化させ地域・大学・企業と連携し、系列のイベントを年2回以上実施する。 [R4 大阪文化系列 3回] [R4 環境科学系列 1回] [R4 マーケティングデザイン系列 3回] [R4 会計ビジネス系列 5回]	
		オ、進路指導部や各学年とも連携して課題を提示し、自宅学習の習慣化、基礎学力の定着を図る。また、補習等を通して大学入試にも対応できる学力の向上をめざす。	外部模試において受験機会を年10回以上設ける。[R4 3年13回 2年3回]	
	(2) 各教科において「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けて、アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善を研究し、生徒の興味関心を高め、「わかる授業」を実践する。	ア、本校生に必要な知識及び態度を再度確認し、それを授業で実現していくための教育内容を検討する。	教育活動の体系化・継続化を図り、教科主任会を年6回以上開催する。 [R4 6回]	
		イ、教材を精選、工夫することにより、学習に取り組む意識を引き出し、基礎学力の定着を図る。また、教科によっては、習熟度別にクラスを編成し、基礎学力の向上をめざし、発展的内容に自ら挑戦する意欲を身につけさせる。	確かな学力の育成のため課題や確認テストを月1回以上実施する。[R4 月1回] 生徒・保護者向け自己診断において「多様な進路選択ができるような選択教科が用意され、自分の学びたいことを学べ、進路実現や自主性を伸ばすことができる」という肯定的回答を80%以上にする。 [R4 79%]	
	(3) 統合に伴う作業を円滑に行い、蔵書の精選・管理と生徒および教職員が利用しやすい図書館運営を推進する。図書委員会の活動を活発にし、生徒の責任感、主体性、発信力等を育成する。	ア、図書委員会活動をさらに活性化させ、カウンター業務や図書館整備など図書館の利用促進についても、生徒が主体的にアイデアを出して取り組めるようにする。図書委員が中心となって読書会を企画し実施する。	各クラスの図書委員に図書当番を割り当て、読書会等を年2回以上実施する。 [R4 ビブリオバトル 1回、読書会 0回]	

2 自己肯定感の育成とキャリア教育の推進	(1) 社会人としての規律を守り、マナーやモラルについて考えて行動できる生徒を育成する。	ア、朝の校門指導等、学校生活全般を通して、あいさつ、言葉遣い、身だしなみの大切さを意識させる。また、規範意識を理解させ、より安心安全で平和な学校づくりをめざす。 体育祭、文化祭等を通して、生徒一人一人が主体的に行動する機会を増やし、生徒会活動をさらに活性化させる。 また、社会に貢献できる人材として成長させるために、自らの意見をしっかりと伝える発信力の育成をめざす。	基本的な生活習慣を確立し、遅刻者数については前年度を下回るようにする。 [R4 381名 R3 410名 R2 496名] 生徒会執行部を中心として、自主性・自立性を育成するため学校行事の企画・運営を行う機会を年3回以上実施する。[R4 3回] キャリア教育を計画的に進め、生徒・保護者向け自己診断において「キャリアプランニング力が身についた」という肯定的回答を80%以上にする。[R4 72%]		
	(2) 自己理解を深めることで進路意識を高め、より主体的な進路決定ができるよう支援する。 また、早期より進路実現をめざした学習が行えるよう、支援する。 さらに、卒業後の進路を見据えた上で「生徒に身につけさせたい能力」を身につけられるような指導を考える。	イ、生徒の進路希望に対応した説明会や講義、講演会を行う。1年次には大学等への見学会、2年次には分野別模擬授業を、3年次には校外において大規模な進路説明会を実施する。 ウ、各学年に対応した外部模試や講習会を数多く開催し、生徒の進路実現のサポートを行う。特に面接指導や小論文指導などでは本校教員だけでなく外部講師を招いた指導も行う。	キャリア教育の推進を図り、進路希望に応じたガイダンス・分野別説明会等の取り組みを年5回以上行う。[R4 9回] 実力テストを年2回以上実施する。 [R4 3年 2回 2年 2回] 小論文添削指導を年2回以上実施する。 [R4 3年 1回 2年 3回] 面接試験を受験する生徒に対し、2回以上の個別指導を行い、学力検査を受験する生徒には3回以上の模擬試験を受験するよう指導する。[R4 平均6回]		
	エ、保護者を対象とした進路説明会などを実施し、生徒だけでなく保護者に対しても進路意識の向上を促す。特に保護者に対しては、奨学金制度の説明を含めた学費の問題に力を入れる。	保護者対象進路説明会を年1回以上行い、生徒の進路意識の向上に対し協力を促す。 [R4 3年1回 2年 1回]			
繫3 繋がる力の育成 安全で安心できる学校の実現と社会の多様性を認識し、「人・社会」と	(1) 安全で安心できる学校の実現と、「よりよい社会」を作ることに貢献する人材の育成をめざし、その基盤となる生活習慣と態度を身に付けさせる。	ア、清掃活動や、環境委員の清掃場所巡視の活動、呼びかけにより、環境を守る意識の醸成を高める。 イ、生徒が主体となる活動を通じて健康に関する意識を高め、安全、安心できる学校になるようなリーダーの育成を行う。 ウ、各系列に応じて時事問題や視聴覚教材を取り入れることで、さまざまな視点で事象を捉える力を養う。 エ、部活動を中心に、地域の各種イベント等へ積極的な参加を行い貢献することで、さらに「地域に根つき、密着した学校」として認知されることをめざす。また、北区で唯一の公立高校として北区役所との連携を深め、北区はもとより大阪市全体に貢献できるよう、ボランティア清掃活動などの諸活動も推進する。	衛生管理の取り組みを進め、環境委員会として清掃場所巡視を月に2回以上行う。 [R4 月2回] 保健・安全に関する指導を徹底し、学校保健委員会を年1回以上開催する。 [R4 1回] 外部団体が実施する作文コンクールなどに年5回以上応募する。[R4 5回] 地域と連携を図り、地域行事に積極的に参加する。すべての部活動の中から、年間20回以上の地域連携活動を行う。[R4 20回]		

	<p>(2) 生命や人権を大切に する精神を養うとともに、 自他を尊重しながら、より 良い学校生活を構築する。</p>	<p>ア、いじめを許さない学校づくりをめざす。いじめについて考える日を設定し、講話などを行う。また、いじめアンケートなどを通して生徒の実態を把握し、適宜いじめ防止委員会を開催する。</p>	<p>生徒理解といじめの実態把握のため、いじめアンケートを年3回実施する。 [R4 3回]</p> <p>生徒・保護者向け自己診断において「自他肯定力が身についた」という肯定的回答を80%以上にする。[R4 71%]</p>	
		<p>イ、講演会などを通じて、生徒がさまざまな人権問題について感じ、考える機会を設ける。他の分掌とも連携し、より効果的な行事の在り方をめざす。また、教職員向け人権研修の企画に協力し、情報収集と外部調整を行う。</p>	<p>・人権感覚を高め、人権意識を見つめ直すため生徒向け人権講演会等を年1回実施する。[R4 生徒向け 3年1回 2年1回]</p> <p>・教員向け人権研修会を年2回実施する。 [R4 教職員向け 2回]</p>	
		<p>ウ、校外の人権研修会に参加するなど、さまざまな人権に関する新しい情報を収集し、委員会で共有・活用する。</p>	<p>・人権教育を計画的かつ総合的に推進するため、人権教育に関する校外研修に10回以上参加し基本的姿勢の形成に努める。</p> <p>・校内の人権教育委員会を年間2回以上開催し、組織的な対応に努める。 [R4 校外研修10回 校内人権委員会3回]</p>	
	<p>(3) ノー残業ダイの徹底</p>	<p>ア、時間外勤務時間の縮減を図るため、教職員への啓発と意識改革を行う。</p>	<p>業務分担の見直しや適正化、ノー残業ダイ実施や全校一斉定時退庁日を設定し、在校時間の縮減を進め、月80時間を上回る教員を0名にする。[R4 4名]</p>	
<p>4 ICTの活用と整備</p>	<p>(1) ICT機器の整備を行うとともに、次世代の教育の情報化に向けて、ICTを活用した指導を推進するとともに、生徒のプレゼンテーション能力の育成をする。</p>	<p>ア、自分の考えや主張を表現するための語彙力や表現力をつける。またICT機器を活用し、校外外で積極的にそれらを発信する機会を設ける。</p>	<p>近畿地区総合学科研究大会、英語スピーチコンテスト、生徒商業研究発表大会等の校外での大会で年2回以上発表を行う。 [R4 2回]</p> <p>生徒・保護者向け自己診断において「発信力が身についた」という肯定的回答を70%以上にする。[R4 63%]</p>	
		<p>イ、ICT教材を積極的に活用し、暗記偏重にならないように体験を通して自ら思考する学習を促す。 さらに、ICT機器を活用し、生徒同士が適切に表現したり伝えあったりすることができる、対話力や発信力の向上につなげる。</p>	<p>ICTの効果的な活用を推進し、グループワークなど生徒による協働学習を行い、プレゼンテーションなど発表機会を設け、自主的に思考する学習を行う。</p> <p>生徒・保護者向け自己診断において「授業において自分の考えをまとめ、発表する機会がある。」という肯定的回答を80%以上にする。[R4 肯定的回答78%]</p> <p>生徒・保護者向け自己診断において「探究力が身についた」という肯定的回答を80%以上にする。[R4 70%]</p> <p>生徒・保護者向け自己診断において「対話力が身についた」という肯定的回答を90%以上にする。[R3 84%]</p>	
		<p>ウ、既存のICT機器の改善を図り、生徒の学習環境の整備を充実する。</p>	<p>ICT機器や視聴覚機器を効果的に活用し、授業の改善を図る。</p> <p>教職員アンケートにおいて、ICT教育について肯定的回答率を100%にする。 [R4 教職員肯定的回答100%]</p> <p>校務運営においてICT化を推進し、校内組織をICT化し、検討会議を年3回以上実施する。</p>	